

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援事業所おひさま			
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 13日		～	令和6年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21人	(回答者数)	21人
○従業者評価実施期間	令和6年 11月 13日		～	令和6年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 1月 6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人にじっくり、ゆっくり寄り添いながらその子らしさを引き出せる療育を行っています。「楽しい」「行きたい」と子ども一人一人が思えるような活動を日々、提供出来るようにしています。	職員間で子ども一人一人の情報共有を密にし、日々の振り返りやケース会議等に時間を掛け一人一人に丁寧な関わりが出来るようにしています。	色々な研修に参加し今まで以上に丁寧な支援に繋げられるようにしていきます。
2	室内、室外ともに広々としたスペースで活動出来ています。	広い空間を生かした活動を取り入れ、のびのびと思いつき遊びを楽しめうるような設定を工夫しています。	園内研修やその他の様々なツールを使って新しい楽しい遊びが提供できるようにしていきます。
3	年間通して言語聴覚士、作業療法士、心理師の専門職の事業所訪問があり、活動内容の指導や個々の丁寧な支援方法に繋がっています。	専門職の先生のアドバイスを受け、子どもの現状の整理や支援繋がっています。的確な専門的観点化からのアドバイスをを日々の活動や子ども一人一人の関りに取り入れています。	今後も継続する事で、専門的視点からの支援を日ごろの活動に取り入れ、家庭や通所園さんと同じ方向性で一人一人にあった丁寧な関りに繋がれるようにしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練実施・避難場所の周知。	・子ども達は各クラスごとに年間で火災、地震、を振り分け訓練を実施しているが、周知に至っていません。 ・契約時、避難場所や緊急連絡方法を説明しているが、周知に至ってません。	・避難訓練の様子を日頃の活動の様子と一緒に保護者へお帳面やライン等の中で伝えられえるようにしていきます。 ・避難訓練場所や連絡方法の詳細を再度資料にして配布できるようにします。
2	保護者同士ゆっくり交流でき来ていません。又、兄弟同士の交流の機会がありません。	・年間で親子触れ合い活動を実施しているが、活動メインで、交流の時間を多く設ける事ができていません。兄弟同士の交流の機会はありません。	・親同士ゆっくりと交流できるような場を提供できるようにし、可能な範囲で兄弟同士も交流出来る場を設けるようにしていきます。
3	保育所や認定子ども園、幼稚園との交流や、その他地域での他の子どもと活動する機会。	地域でのこどもとの交流は少ない回数ではあるが、（子育て支援センター、図書館、公園等の利用で）機会を設ける事が出来たが、少なかった。	・定期的に活動に取り入れるなどして、可能な限り機会を増やしていけるようにします。